

DX化の詳細

パートナー会員事務所限定 無料オンラインセミナー

【セミナー内容】

1. DXとは
DXの定義を説明
2. なぜDXが必要なのか
社会の流れ（マクロ環境）
3. DX実現、企業成長のカギはDX人材
CEOをサポートし、組織をDXに導く人材
4. DX人材とは
DXリテラシー標準とDX推進スキル標準を備える人材
DX人材の類型（IPAが定義している類型）
中小企業にとって必要なDX人材を説明
5. DX人材育成カリキュラム
有料講座の内容を説明

講座内容

1. DX人材に求められるスキル
2. DX人材の目指し方
3. ”人”が企業にデジタル変革をもたらす

1. DX人材に求められるスキル
 - (1) 経営・コーポレート
 - (2) 業務設計・構築
 - (3) 事業開発
 - (4) ビジネススキル
 - (5) マーケティング
 - (6) IT知識
 - (7) システム開発
 - (8) データ

DXという言葉が非常に幅広い意味で使われているため、その定義次第で異なる

ところはありますが、私が考える DX 人材に求められるスキルはおおよそ以下だと考えています。

以下、それぞれの項目に関する補足を記載します。

(1) 経営・コーポレート

今や多くの企業が DX 事業部を立ち上げて、DX が企業の戦略になりつつあります。こうなってくると、DX を推進する人材には業務やシステムだけではなく、経営視点でモノゴトを考えて企画や施策を推進することが求められてきます。経営企画的なスキルはもちろん、組織横断的にプロジェクトが進むケースが多くなるため、組織そのものに対する理解も必要となります。

(2) 業務設計・構築

私が DX 推進で 2 番目に重要だと考えているスキルが業務設計・構築です) ((1 番は後で出てきます) 本当の意味でデジタル化を進めるためには、業務でどの様にテクノロジーを活用するかにかかっています。現在の業務を冷静に分析し、あるべき業務の姿を描き、その実現に向けて必要なプロセスやチームの構築をリードできる人材が確実に求められてくると思います。

(3) 事業開発

DX の 1 つの大きなテーマとしてデジタルを前提としたビジネスを創造することが挙げられます。既存事業の延長戦ではない、全く新しい視点でデジタルビジネスを生み出すためには、デジタルの専門的な知識はもちろん、ユーザー視点やトレンド把握、それを実現する行動力など、事業開発的なスキルが求められます。(余談ですが、かつて任天堂が花札メーカーからゲームメーカーにシフトしたのは、まさに DX のいい事例だと思います)

(4) ビジネススキル

DX では比較的難易度の高いテーマに取り組むことが多いため、一定以上のビジネススキルが必要になってきます。戦略的なアライアンスや合併会社の設立など、組織外と協業して進めるケースも多いため、リーダーシップや交渉力は重要なスキルになるでしょう。

(5) マーケティング

DX の要素としてデジタルマーケティングは必ずと言っていいほど必要となる要素です。従来オフラインで実施されていた営業活動や販売活動はデジタル化されていく世界において、マーケティング手法もデジタルシフトが急速に進んでいます。DX 人材を目指すのであれば、デジタルマーケティングは必須の領域と言えます。

(6) IT 知識

当然ながらデジタルは IT の世界であるため、AI・IoT・ブロックチェーンなど新しい技術に対するキャッチアップはもちろん、システムとは何か、どうやって動いているのかと言った基礎的な IT リテラシーは引き続き重要になってきます。

(7) システム開発

DX を実現する際には、新規のシステム開発、ないしは既存システムのリプレースといった大規模な開発が発生することが予想されます。デジタル世界のビジネスは流動性が高いことを念頭に置き、従来型のウォーターフォール開発ではなく、アジャイル的な開発手段やそれに耐えうるシステムアーキテクチャの設計などをリードできるスキル・経験が求められます。

(8) データ

私が DX 人材に最も求められるのはデータに関するスキルだと思います。データはデジタルそのものであり、それを自分自身で理解し、扱うことができなければ DX を推進する人材になることは難しいと考えています。(※あくまでも個人的な意見です)

また、個人的には高度なデータ分析スキルよりは、簡易的なデータの抽出・分析ができることが大切だと思っています。実際の現場では後者の方が圧倒的に必要ケースが多いからです。自分自身でデータ＝デジタルのファクトを分析して、インサイトを見い出すことが DX 実現の近道になると思います。

2. DX 人材の目指し方

こうして整理してみると、世の中に DX 人材が不足している理由も分かってきます。上記の通り、**DX 人材にはかなり複合的なスキル・経験が求められてくる**ため、企業が意図的にそういった配置転換を行うか、個人が自ら学習し続けない限りは自然とこういった人材に慣れるケースは少ないと考えられます。とはいえは今後市場で求められてくる人材であることは間違いのないため、DX 人材を目指したい！！と言う方は、できる範囲からご自身に足りていないスキルを習得することをオススメ

DX 人材の目指し方を記載します。

■経営・コーポレート系の方

業務設計やデータとの相性が良いため、それらの領域に染み出すのが早いと思います。DX 文脈でバックオフィスのデジタル化・効率化も進んでいるため、そういった取り組みに参画できるスキルを身につけるのが良いでしょう。

■営業・コンサルタント系の方

営業やコンサルの方は業務設計はチームビルディングが得意な方が多いと思います。その得意分野を活かして、システム側の要件定義やマネジメント、業務データ

の活用に拡張するのがスムーズです。

■事業開発系の方

昨今多くの企業がDXと言う名の下、デジタルビジネスの事業開発に取り組んでいるため、その中で勝ち抜くためにはデジタルマーケティングのノウハウが1つの優位性になると考えられます。また、デジタルビジネスを考えるうえでデータへの理解は必須になると思います。

■マーケティング系の方

マーケティング系の方は事業開発系の方と比較的近いスキルの身に付け方になると考えています。マーケティングはデータ領域と密接に関係しているため、データスキルも兼ね備えたマーケターを目指す、もしくはデジタルマーケティングを前提とした事業開発に幅を広げるのが良いと思います。

■SE・エンジニア系の方

この領域に関わっている方はビジネスサイドへの理解を深めることが良いと思います。先にも述べた通り、DXはビジネスサイドの文脈で語られることが多い一方、そのアイデアをシステムまで落とし込める人はまだまだ少ないため、ビジネスサイドの知識・経験を装着をすることで、希少性の高いDX人材になることができます。

■データ系の方

DXを推進するうえで、データインテグレーション・データ活用といったデータ領域の重要性は引き続き変わりません。既にデータ系に携わっている方は、データから得られたファクトやインサイトを実際にビジネスや業務に活かすところまで染み出すことで、提供価値を大幅に向上できるはずです。

3. "人"が企業にデジタル変革をもたらす

ここまでご紹介した通り、DXはデータ、テクノロジー、マーケティング、新規事業といった様々な要素で構成されています。これらの要素を結びつけ、1つの形にするためには"人"の力が必要です。

他の先進国と比較しても日本はデジタル化が大幅に遅れおり、その真因は担い手の不足にあります。今後の国際社会で日本が競争力を維持するためには、DX人材をどの程度増やせるかにかかっていると思っています

●経済産業省の未来人材ビジョンはこちらから

【専門家紹介】

三倉達矢



【中小企業の生産性改善、生き残りを掛けた待ったなしのDX化】

国内大手自動車部品メーカーが出資するシステム開発会社に15年以上勤務。設計部門において業務可視化、ノウハウ共有化を目指した独自システムの企画、開発、運用保守業務などを長年経験する。中小企業診断士資格を取得後、グループ子会社向けのITコンサル事業を経験し、2022年に独立。システム開発の現場で習得した業務の可視化、構造化の技術と中小企業診断士の経営知識を掛け合わせ、DX時代に合わせた中小企業支援を行う。